

長門湯本温泉・リバーフェスタ2018
社会実験の報告

【夜間景観】

20181015
株式会社LEM空間工房

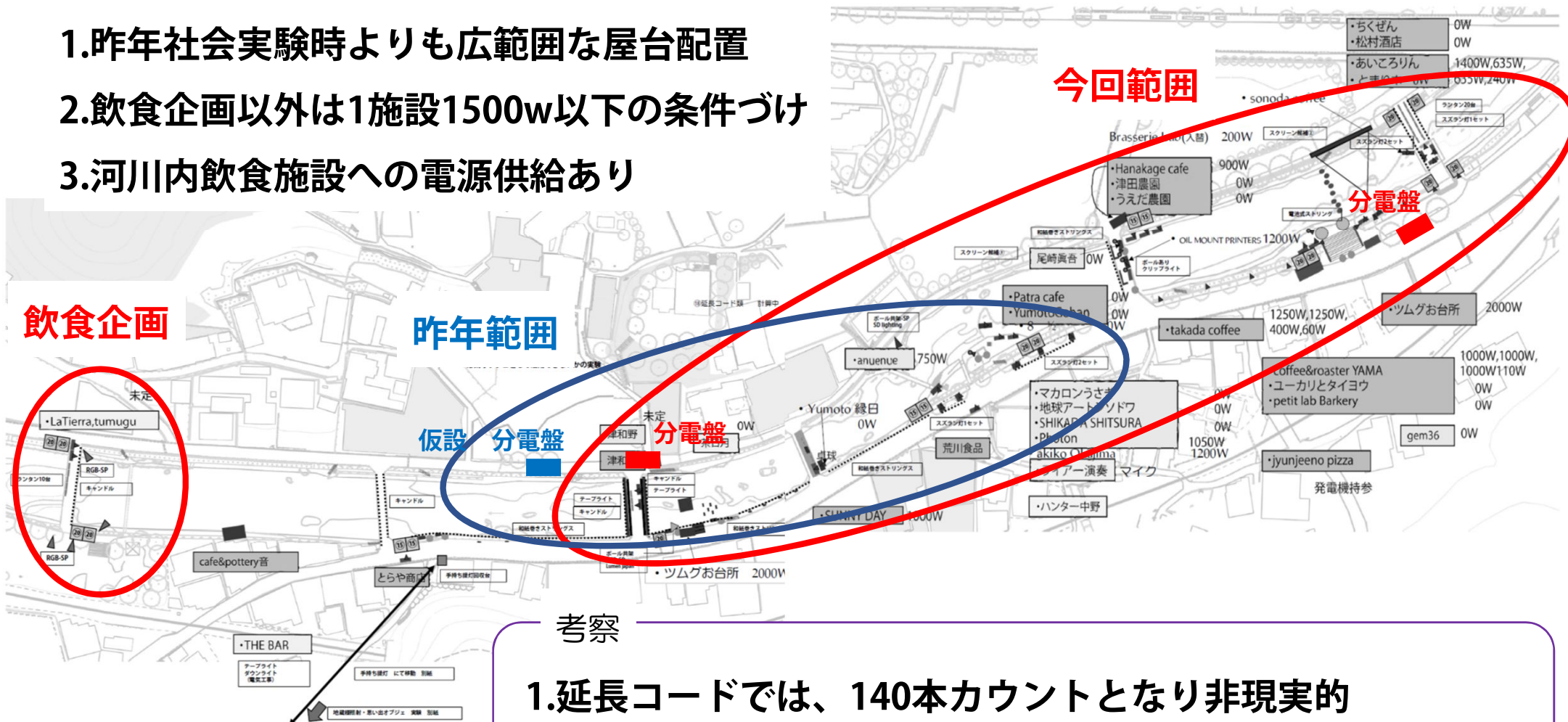
1) 社会実験評価項目

- ① にぎわい演出(屋台等)時の電源供給に関する考察と電源設備検討
- ② 新設イベント用コンセントの位置評価
- ③ 川床照明手法の検証・河川内カラー演出の印象評価
- ④ スtringス演出（イベント時）の印象評価
- ⑤ 雁木広場からの対岸・映像イベントの可能性評価
『おとずれキネマ』
- ⑥ 大寧寺線（地蔵小道）の照明配置評価（提灯行列の可能性検討）
- ⑦ 景観形成に建築物を照明オブジェとして活用することの可能性
（おとずれリノベの手法検討）

① にぎわい演出(屋台等)時の電源供給に関する考察と電源設備検討

今回の特徴

1. 昨年社会実験時よりも広範囲な屋台配置
2. 飲食企画以外は1施設1500w以下の条件づけ
3. 河川内飲食施設への電源供給あり



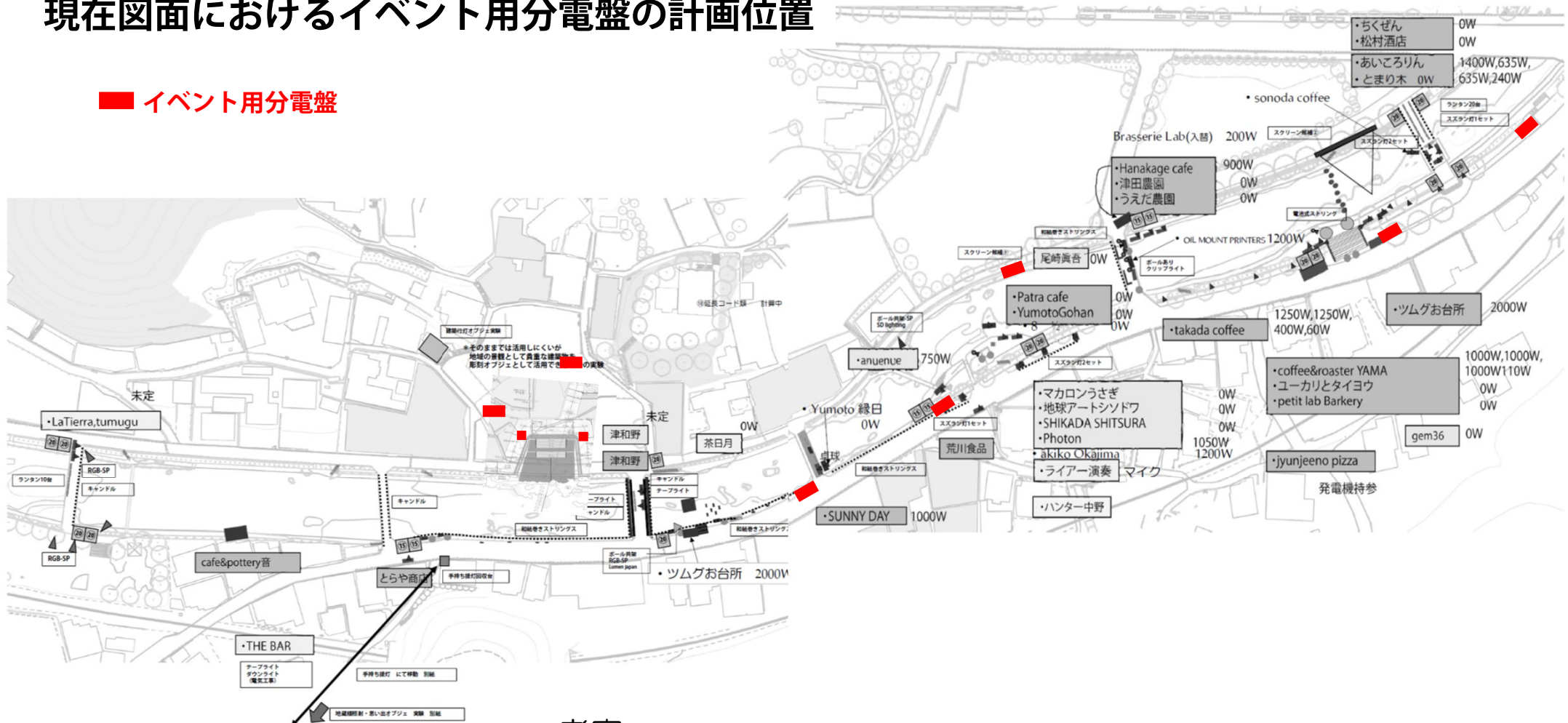
考察

- 1.延長コードでは、140本カウントとなり非現実的
- 2.現状分電盤では電源供給が出来ず 2.8Kw 7 台の発電機使用
→イベント用分電盤の整備が必須
- 3.最適電源さえあれば運用が可能

② 新設イベント用コンセントの位置評価

現在図面におけるイベント用分電盤の計画位置

■ イベント用分電盤



考察

1. 八千代橋～千代橋間に電源が無くても良いのか？
2. 湯本線・曙橋付近に無くても良いのか？

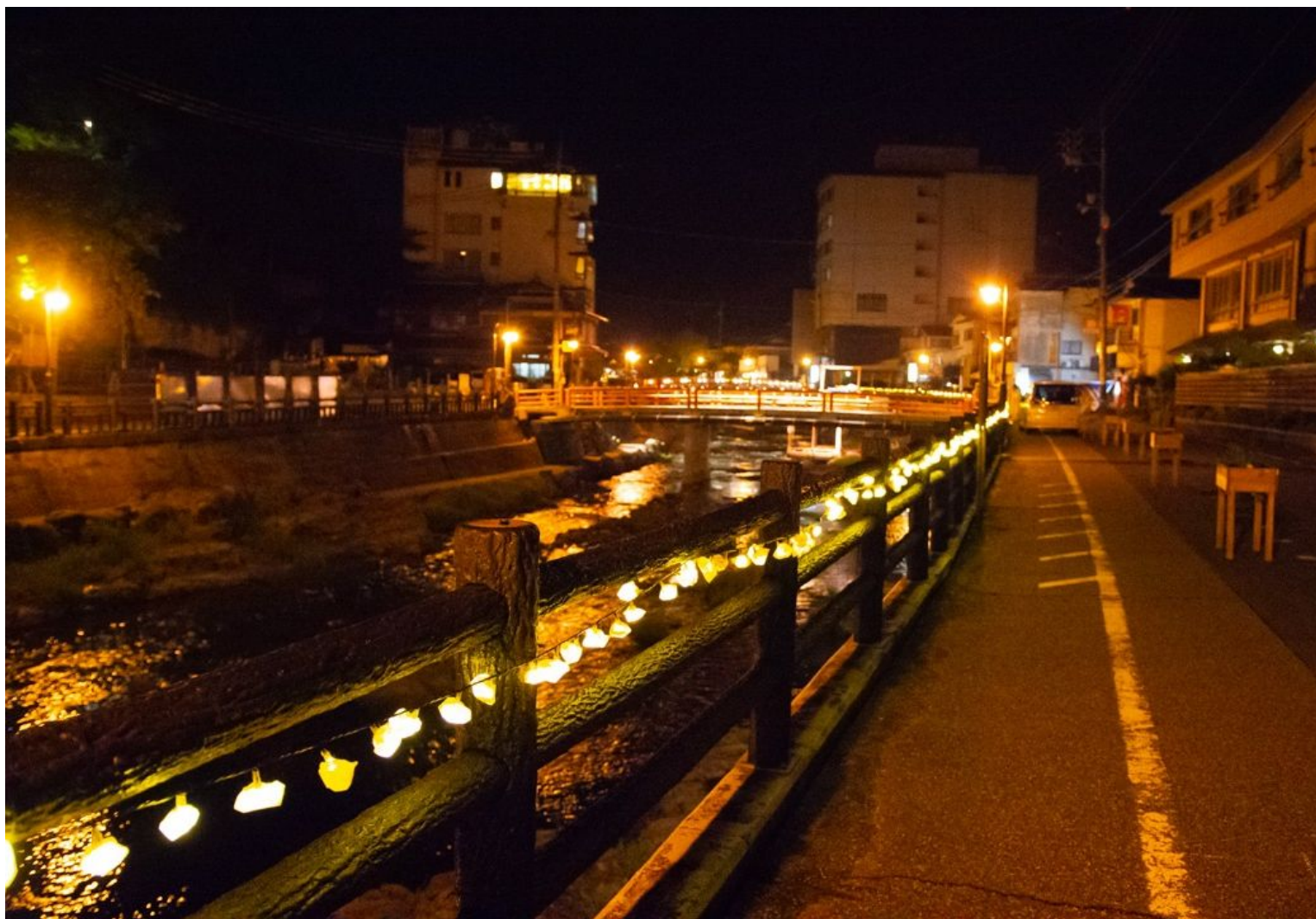
③ 川床照明手法の検証・河川内カラー演出の印象評価



- 印象的な川床となったように感じた
- 幕ありの場合でも効果はあった
- カラーも特に違和感がなかったのではないか

④ スtringス演出（イベント時）の印象評価

屋外の長い距離に華やかさをを持たせるStringライトでの照明手法が
長門湯本温泉のイメージに調和するかどうかの検証（設置が簡単な機材）



和紙巻きのStringスは
おおむね好評であった

⑤ 雁木広場からの対岸・映像イベントの可能性評価『おとずれキネマ』

雁木広場活用・公共空間使いこなしの視点で、映像装置の活用や有志団体による集客可能性をさぐる



- 10000lmプロジェクターによって対岸より投影する効果は検証できた。(2コンテンツ上映)
- 対岸雁木からの鑑賞は可能であった
- スクリーン使用時には投影コンディションは良好

⑥ 大寧寺線（地蔵小道）の照明配置評価（提灯行列の可能性検討）

お地蔵様の照明、低ポール照明の間隔などの検証。またその状態での歩行の安心感に関して考察



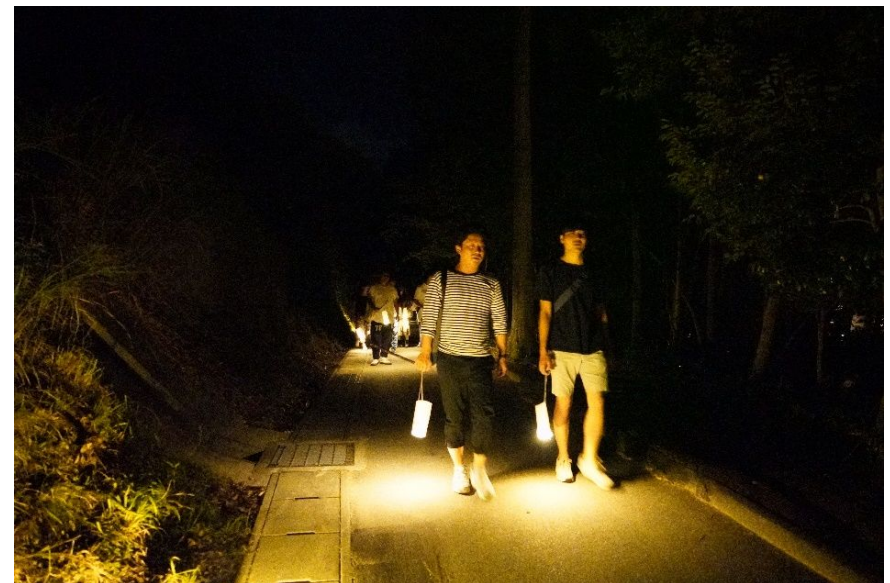
お地蔵様の照明は周辺も明るくなり良い



低ポール照明の間隔は何とか歩行できる程度



提灯を持つての歩行は安心感があつた



⑦ 景観形成に建築物を照明オブジェとして活用することの可能性

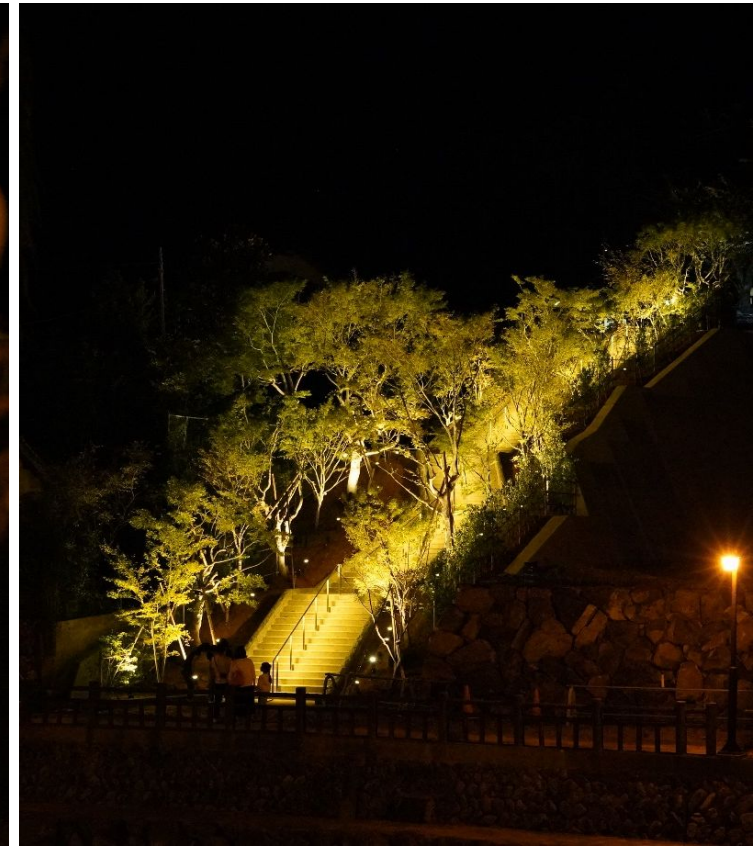
景観的に重要な建築物でありながら、改修計画が無い物件の活用方法について検討

清掃を実施し、内部にクリップ式スポットライトを点灯



あかりがともるだけで、周辺の印象は変わる。安心感も生まれ実施効果が確認できた。

⑧ 照明効果



特徴のある紅葉の階段が完成し
多くの人々が写真撮影を行っていた。
観光地6項目の中の「絵になる場所」
となった。